教艸女房
形氣二編
上卷

京山作
豊國画

弘化丁未新梓

錦耀堂板

へ13
3703
2

宗山仕

女房形氣二編上下

豊国画

門 へ13
號 3703
巻 2

京山作
歌國画

女房形
象下乃
光

錦耕堂

山田屋板

教艸女房形氣二編上巻

用えさてのひかりふ惟成が妻
ひけるあうらゆめして綱ぢまる
らすびとそ夫をうづ中けり
さそ惟成い友達と
ともふそれのあ成
あそびなくらそ
もはのと
とちやう
つるくそ

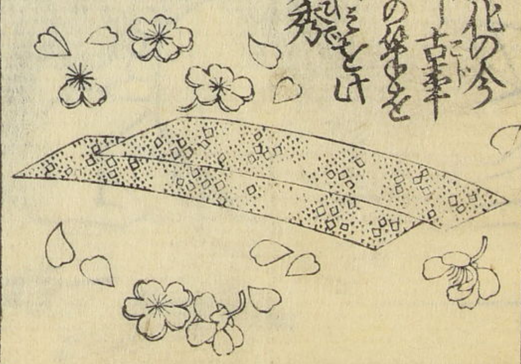
なもひつぐ
らひふやて
仕ア唐
櫃と酒ひまう妻よりとひ
けれが惟成られしくひらきこるふ
二年ばかりのめふ雑一折酒と
さえそえければ友達の人も惟
成がつまのかひくをなられば

これるの面目をえてふうと
ちくえをこそ日とこに家ふ
かりて祝やふ也附つまの
髪をとれが磐ろりきり
たるさまるれが炭ふあど
ろ紀事のうしもとし
けるふつまのふあうつうの
ぎくろ髪へ大ほ
髪の形狀
の米ふ
かそけの
の事を
ての人ど巳
とらひく涙入

弁の惟成が妻
る夫截髪く
換米図

▼かゝる油とあてけれが惟成もるこゝ不ふれるとゝ●仏故事ハ弘化の今
去る嘉永六百五十余年まへ建保の間兼顕つの記しるせり古事
談とゝ春の前編の二の巻ホアをそう今氏女房形気の二人の年をを
そうんとてそをとりひらゞたる四名六百年まへの女房のかゞ
女房形気ふてして合ゞかゞことあるまをするんかの明智光秀
が妻妾のためホ髪をうりたりとゝふをうゝ好事の人
件の惟成が妻の髪を西ゝるれ虚言るゝ
数ゝ了中も母ゞ子のためホ髪をきりてうし事世説の
賢媛の部ホをえこれと女房ゝねがまるさ不
色情のためホ髪をきりゝ事西土ゆゝあまくあり
さまとゝゝ不用ゝけれがたぶきぬ

女房形気二編発端



母さゝだへけろ
あんとゝ
かも川の
下ゝ
すゝ
つき人ゝ
ゝ
ゝ

奉納

あるとこれはたのもしてあるをかせがくはつくまてありまへ西入りまる人かるくぎさんけいまるやくーのがくなら人あるまをかのがくをときこのけりそのがくのあるいうつくしい女をあつまてあるむまるこのまへをありくるところ人ぢやうをあろーたるさまをあるきたるかは一まゑのあををぢいけるそのうちふーこのとけのちりひとたてーせきのとはとめあぬいるくぎうけるとうきこぐさんまゑねのとの女とあるせり　おのれこのやくーさまへぐさんをうけんのうちふせきとまをて男いれちーとあるへともるくぎうさまへかのせをゆもこめらとぐらとで

○あをうろ名を

かるーとふむるりけかくあるとがかけーりとかところの人もまるぞめるしまがくるるのこふあるふるるめまんのりろのぶるまをまけるるぐとくるまをのるりの人いさるりるるりのるりよりもるつくてあるかるる人をれるりけまをやくーのこまへゆも人あるまけーけかるるるふにぎまるひまをけまをるいるくかるの名たるくるるつまをるからとがさけーとかまるのるるりけり

第二版

さまをまるるるるるひふたるそーせまるの戸とかふまをれをとけのまへかけるれをるのかるまをれをせまをれすまるかふまるるるるるとまるるるるるをるをるるるるるるるるるるのるるるるるるるるるる

(二)おいとい人の人さうてのぢらよの
かごとりとれをこそ女房
形れのるの本とらめ
●さて二ら吉ある日やとくり
ておいとふのひけるうり用ふやと
いるとのさきゆそうさんとをきけが
つれくぐごーもあんあるの山さる
のたは母きこだけっるんさまはこび
とのあるまへたうぢとそあまれ
あちやへたきのうーうりアなおばば
ねんさまのこあうと人そりハあ数と
つとて松尾とやきまてる才のさそ
ゑふおやうるるけれどもふぎのあくこやう
をうけてそのーぐをっとるこ名りんぎの
つぎのあくとあけさひしりまくふうり
こふありてだけっるんさまのおさもの
人ふたうけらまとあばりるるうくきあふ
あるんもあまびこうしはとろをたち
のきあぢらくオとかくさえとなりのが
あのーいるんとうりやるぢあとこれをきこて
うちあとうれ「そまこいありしうくふるうりう
りゆもてとうめらまていけとど
ぢぜんさまりつひろうどぢびゆもるく
ついふあうまりめ上りうるゆもるければ
ひたびの虎たうぢもおるぐさこのたあうーん

(二)

さきれびるぐきこ市たうやうもあるまで
けまびあまへいびまうぎ
とうりりりてうーん
あおのかん
びまうとそ
ぢをさぎー
用あうぶ
よるふたー
人ゆうれ
ふあまぜぎ
ぢうるるもの
あるまー
たえ
言
ふうり
ともー
そとうあげよ
まそいあうさびと
ふりのどれやーや
ぢぜんせあうーと
いうりのうーともるういひ
ぶんゆうあまあのとうりいふ
きうせてぢをぎーかとへるいどうけり

第三段
掛月わん
つぼやとよりゝ
子菓女

玄し
栄竹

名とりえ
芳吉

心の関
あとう
今へ
あとと

第四段

あいと
あるあるん

らうゆん
井ふ
お竹
その二

百五
かさ
吉

かくてあるる日のひるどろか竹あり
ゑりぶかりてあるぶごーきへきこうり
かのかきゑゑのをかくふまりひき
けるとばあ行ぐことだとまくふまりて
かきゑゑりん「ごうじやでまろうと
らうまとてやぐるる女のろく
ふやくれどさく者ままけ
まそ五郎のくらふくろ「のひ
きくこともそもつて
ゆのまきまるけうく人い
あるとうあゆのいう吉を
ふよびるこまとありて
かきで「いくまだんゑゑ
いくてくくよ「りいたくくば
ばまうう義を「をくさ「さまうくう
りくうくは「いのまくとあ行をまくを
まうぐのぼあるゑりふまるけるとば
あらとぶあゆをよびかやうくふまうりれよ
とありゑりんがたるくふあ行よりひつけ
りう吉をよびよもけり

その二

とふみゆ松琴二ぢら名ゆて吉ぶ美べれまぐる

(二)かきゑりん
じやまうのや
さまうでのぐまう
まねねどうけ
あるとおいとん
男ふあゆまゆ
をとうりけ
ますとたくん
とまるうを
二ぢら吉
才ぢら
武士じや
ゆまりゑ
ゆんゆこの
あとたの
まれて
うけあり
ゆでたぬと
ぐるう
武士
たぬ

れ用いいふとのひければ井ふかきゑりんひとと
さてかえるる小ぐーきえまりひきかりてうありゑ
りんがぶまうまりくはいめとあーいりとの
ゆいとあふかるーゆふくありのまくそく
ゆててうりかくぐいまえつれゆたう
のぐくくくいかりもいりまりふぐまう
きよふびれい百あふいとぐまくくん
こちうぐまるえとぐう
ドやとりければうう
吉いりりひがるる
ゆゑへんドふまり
まゑあのふやとくと
かきゑりん「いりと
いりりがまうう
せぐまりくまる
りのりーりびく
ぐりぐくくく
るう「まうぐりは
どぐりませゆが
ゆいとりゆゆ
けありて男ふ
ぐりれませあ
そのけいどうーく
るドや「その長いくゆ
りりとまりあ「さすまるば(一)

かきゑりん

おりと

二ぢら吉

ことこのとりりん
刀のきん
丁人ゆ
りりまぬ
つりをく
とせりぐりまる
ゆりりと
へりりくまぬ
きりのおりと
ゑりゑ用ありそ
とくへきまりければ
かきゑりんりゑりう
くそりりとへりのへの
ゆりをりりまりせ
りりくりりくりて
男ふありまゆ
つけをりりゆ
ぶりふりりとゆ
そとりりて世と
ゆりとりけり

その二
あまでらの上人
よりい
あまでら

あらとと

たゞさいとそれがあるせどうにてたゞやうとさうふまれば
一
二
三
四
五

六

第六話

第七話

あまきさのかるもホのちのつまを
むすーそれぐ今さらいえとも
せんすぐすーさりるぐらーアろぐての
ちんとそるえとちさものであらふと
たのらきつけぐたふたーいる
こまるるこ系のんかオぐうこと
ぐひとそんしこふぎとちりりーい
あやまりるりしとさんらろれば
あやろいさーるうこれれことはらも
ふきのあくこるうとそぐきさんの
るもかるべー さるうあらば
せちーやとりきぐんへあやま
ひの一さろと いやくそれゆハ
あるるるあオぐうこぐひれれ
ふをあやろふきろせてよろ
こんせわまぎこへもヤとん
まるくばようしく
かうのこヤスクを
がまものちのつま
きるるんがあやろ
とくさんものを
さんれんちぐくとるこ
系のんぐとぐのちぐう
をけざーきのゆんこ

三 たまけり竹子系のふ
るやらんまぐ竹更
うきけれど

口上

京山作更
麻世女装考と
ヤスこの紙本 三

おふで

世この髪のふり ・べホ ・ろへ
あぶらゆとあひのろおそのたで
まるをちるー ・かれをつけるゆ
・ふ西とちとそゆのけけいるお
たきりのふいこるもで古今の
うりかちを和浸の古書ふ
よりて考証りきるホあり

かんく久
古画を
あげ ・かぐこ

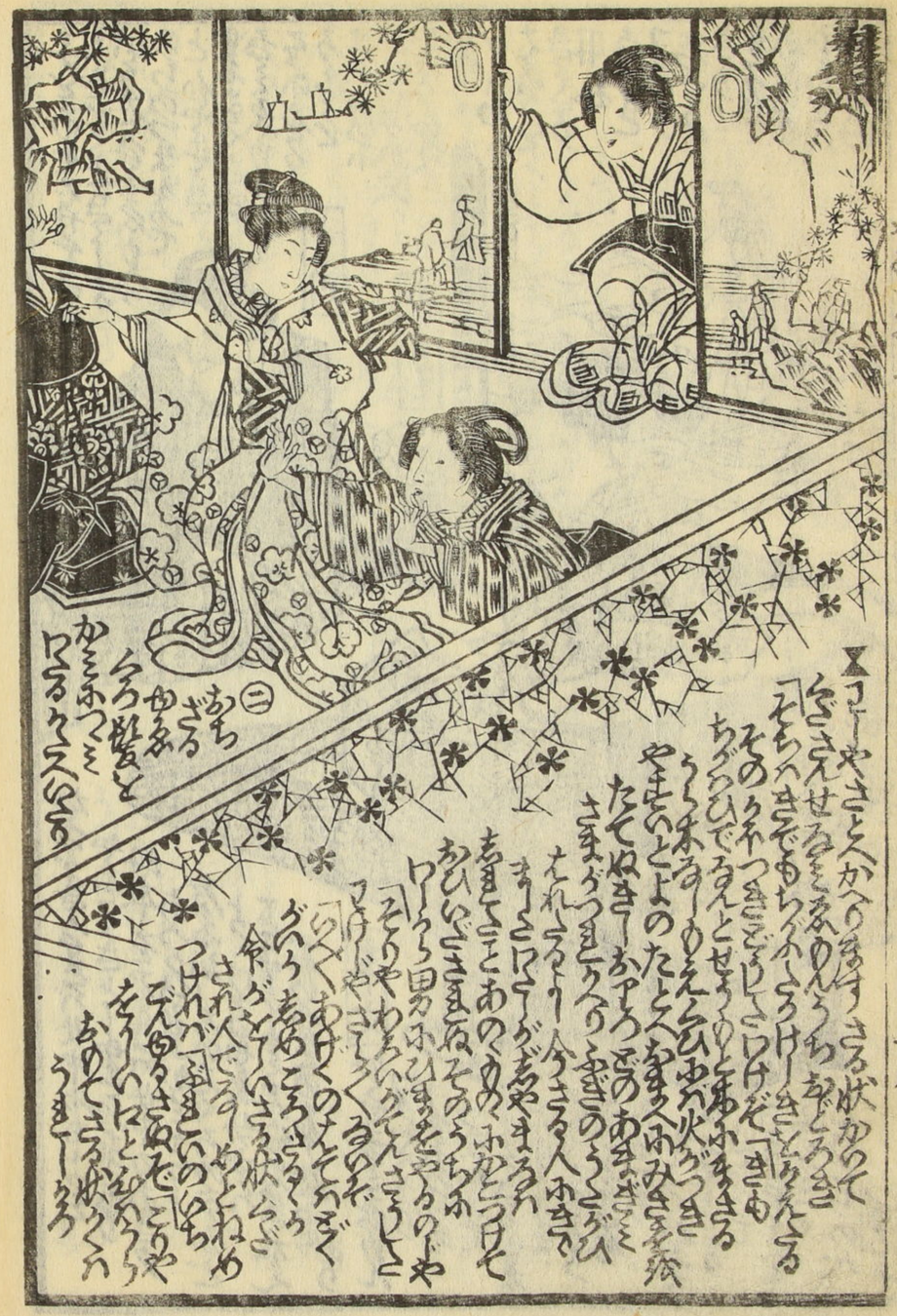
四 四冊 出板 仕ハ 本ハ 神代の
ちりより ちるき
ゆ ま
まこの 女の
風俗を
古書ふ

子とあそだせそおるる
うをそくときてーしの
ばうそるこ系のんが
のちのつまかるで
とかやそきき
男ちぐさま
るこ系りんが
そふをる
ろをを
さいひふ
かそがか文
いりりまま
かうう
くの
たををを
きこうり
用ふ
るさを
つろく
ちろう
さう
きるで
あらんと
をホ系
つけて 一

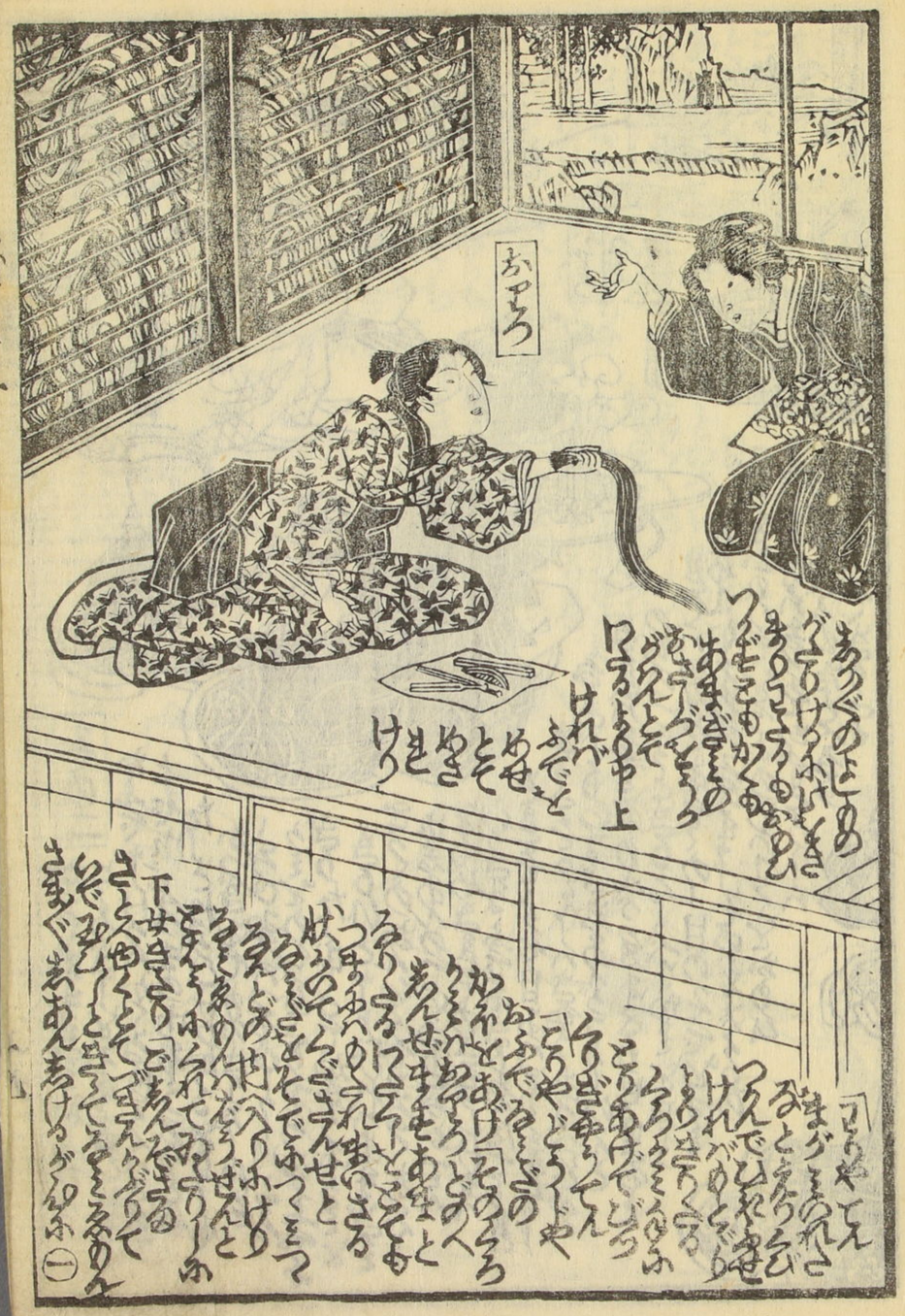
かるぐきるまバ女中ゆもよこ
やちくさとーやそ紀本ゆり
此本をたまバ女中のあさタ
あるひ系かこて
ぐふかろのちぐろのゆるど
よくワるあ系女中い
ことさーよこそのべき本こ
右のぐきの本ぐゆあり

本文

かそるこ系りん
ワるやへろう
けふのちの
つまかふで
ここんぐるゆ系
大小ろるま
るどてぐうう
ちりをきり
たるころ
やうくかそ
えんどより
ふちので
目ふるこぐを
ふここて
ろれこちのハ



おちざる
おちざる



おちろ

その二

琴沢弟
あふで

俗称涼仙

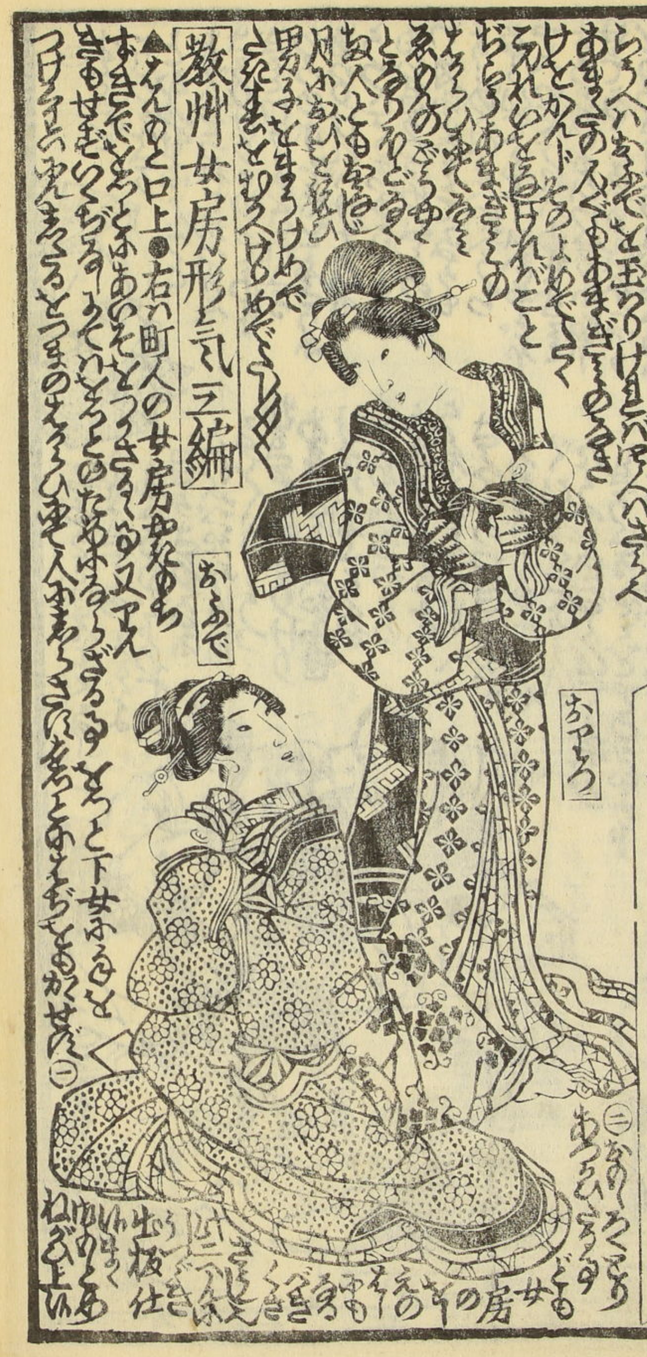
同肖造

京山作
豊國画

おやろ

おふで

教州女房形氣三編



教草女房形氣 初編 上下 歌川豊國画 山東菴京山作

同二編 同作 同画 初編の女房おやろと不義のあくまぶ女房おふでとの松琴家ありまの四ぐるあくまのとうけーうくわの松もめとなるもあくまのあるとあくまもと二へんとまも

同三編 同作 同画 此二へんハ母子竹とよるのとうえ竹ようて紫あぢくびあまにのるふにくまありてお女中方のたくるわり女房の女房たる女房のこちをあるせり

同四編 同作 同画 此四へんハこべんとうつぐく下女のおいろぐ男のるり あるさあふるる人者うりぐ吉の姉のおふぐがわろだくめんるる時をつるるひまりめとあるせり

人情教訓 蓬塚物語 初編 京山作 引つゞき 上下 豊國画 出板仕

父雙子都宮譚 初編上下 傀儡子作 二編上下 歌川芳虎画

東都地本屋中橋廣小路錦橋堂 山田屋庄兵衛板